

哲学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
哲学特論Ⅰ	フッサール現象学研究	2	佐藤 駿	前期 木曜日 4 講時	哲学特論Ⅱ
哲学特論Ⅱ	デリダの脱構築読解	2	小原琢磨	後期 火曜日 4 講時	哲学特論Ⅱ
哲学特論Ⅲ	カントの観念論論駁とその諸文脈	2	城戸 淳	前期 木曜日 2 講時	哲学特論Ⅲ
哲学特論Ⅳ	新アリストテレス主義、そしてその先へ ——形而上学的諸概念の再構成	2	中畑 正志	後期集中 その他 連講	哲学特論Ⅲ
生命環境倫理学特論Ⅰ	生命環境倫理の諸問題	2	直江 清隆	前期 火曜日 3 講時	哲学特論Ⅰ
哲学総合演習Ⅰ	哲学研究の作法と技法 1	2	直江清隆、荻原理、原塑、城戸 淳	前期 月曜日 5 講時	哲学研究演習Ⅰ
哲学総合演習Ⅱ	哲学研究の作法と技法 2	2	直江清隆、荻原理、原塑、城戸 淳	後期 月曜日 5 講時	哲学研究演習Ⅱ
哲学研究演習Ⅰ	ニーチェ『善悪の彼岸』を読む	2	城戸 淳	後期 木曜日 2 講時	哲学研究演習Ⅰ
哲学研究演習Ⅱ	政治哲学演習——アレントの視点から	2	森 一郎	前期 火曜日 4 講時	哲学研究演習Ⅱ
哲学研究演習Ⅲ	エンハンスメントの哲学	2	原 塑	前期 金曜日 5 講時	
哲学研究演習Ⅳ	当事者研究の哲学	2	原 塑	後期 金曜日 5 講時	
古代中世哲学研究演習Ⅰ	プラトン『ソフィステス』を読む(1)	2	荻原 理	前期 月曜日 3 講時	古代中世哲学研究演習Ⅰ
古代中世哲学研究演習Ⅱ	プラトン『ソフィステス』を読む(2)	2	荻原 理	後期 月曜日 3 講時	古代中世哲学研究演習Ⅱ
近代哲学研究演習Ⅰ	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸 淳	前期 水曜日 5 講時	近現代哲学研究演習Ⅰ
近代哲学研究演習Ⅱ	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸 淳	後期 水曜日 5 講時	近現代哲学研究演習Ⅱ
現代哲学研究演習Ⅰ	現象学研究	2	直江 清隆	前期 火曜日 5 講時	近現代哲学研究演習Ⅲ
現代哲学研究演習Ⅱ	現象学研究	2	直江 清隆	後期 火曜日 5 講時	近現代哲学研究演習Ⅳ
科学哲学研究演習Ⅰ	哲学のメソッド	2	原 塑	前期 金曜日 4 講時	科学哲学研究演習Ⅰ
科学哲学研究演習Ⅱ	記号論理学	2	原 塑	後期 金曜日 4 講時	科学哲学研究演習Ⅱ
生命環境倫理学研究演習Ⅰ	AI、ゲノムと人間（医療や食糧、気候変 動など）	2	直江 清隆	後期 火曜日 3 講時	生命環境倫理学研究演習

科目名：哲学特論 I / Philosophy (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：佐藤 駿

コード：LM14401 科目ナンバリング：LIH-PHI601J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：哲学特論 II】

1. 授業題目：フッサール現象学研究
2. Course Title (授業題目)：Study of Husserl's Phenomenology
3. 授業の目的と概要：この授業では、E. フッサール『現象学の理念』講義を手がかりに、フッサール現象学の概要と内容を確認・検討していく。『現象学の理念』講義は、フッサールが『論理学研究』（1900/01 年）における自身の現象学を改訂し、新しいかたちの現象学（超越論的現象学）へとつくりなおそうと試みていた時期に行なわれた講義の一部であり、その構想が概括的に述べられた 5 つの講義からなる。それぞれの講義で取り上げられているトピックをもとに、フッサール現象学のアイディアを追究し、その理解を得ることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will have an overview of Edmund Husserl's phenomenology, based on his five lectures in 1907 later published as "The Idea of Phenomenology." These five lectures are known as ones in which Husserl anew developed his conception of phenomenology originally exhibited in his Logical Investigation (1900/01). Students will see what Husserlian phenomenology aims at and its fundamental issues by examining themes in respective lectures.
5. 学習の到達目標：・哲学の問題意識に親しむ
・現象学の基本構想と基本概念について理解する
・哲学的問題に対して、自分なりに考えを表現し、それを伝えることができる
6. Learning Goals (学修の到達目標)：This course helps students understand the basics of Husserl's phenomenological philosophy; get familiar with some philosophical issues; express their own way of thinking.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション：授業の形式や進め方などの説明を行なう
 2. 「講義の思索過程」(1)
 3. 「講義の思索過程」(2)
 4. 「第一講義」：自然的態度と哲学的態度
 5. 「第一講義」：認識の現象学
 6. 「第二講義」：認識批判の出発点
 7. 「第二講義」：現象学的に認識問題を捉えなおす
 8. 「第三講義」：現象学的還元
 9. 「第三講義」：「還元」の射程
 10. 「第四講義」：志向性
 11. 「第四講義」：明証性の原理
 12. 「第五講義」：現象学の諸問題 (1)
 13. 「第五講義」：現象学の諸問題 (2)
 14. 「第五講義」：現象学の諸問題 (3)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
授業への参加態度 (45%) + 期末レポート (55%)
9. 教科書および参考書：
 - ・Edmund Husserl. Die Idee der Phenomenologie. (Martinus Nijhof 1950; Felix Meiner 1986)
 - ・『現象学の理念』立松弘孝訳、みすず書房、1965 年
10. 授業時間外学習：対象テキストのみならず、フッサールや現象学の関連書を読んで、感覚を養うこと。

Students are expected to make themselves informed by reading other texts written by Husserl and the related books or articles.

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：哲学特論Ⅱ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：小原琢磨

コード：LM22406 科目ナンバリング：LIH-PHI602J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：哲学特論Ⅱ】

1. 授業題目：デリダの脱構築読解
2. Course Title (授業題目)：Readings of Deconstruction in Jacques Derrida
3. 授業の目的と概要：デリダの「脱構築」についての入門的な概説をおこなう。脱構築の語は哲学の分野を越えて文学、社会経済学、美学や建築学にまで使われるようになったが、この語はもともと「伝統的形而上学の解体」というハイデガーの初期の企図に由来する。それゆえデリダの実践も同じく、数々の思想家のテキストを読解することであり、それによって当の思想の限界を暴き出すことであった。この授業ではデリダのそうした脱構築の作業を綿密に読み解きながら検討することで、読解力と理解力の向上を目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides an introductory overview of Jacques Derrida's "deconstruction". The word "deconstruction" and its operations are applied not only to philosophy, but also to literature, social economy, esthetic and architecture. In the first place, it was early Heidegger's project "the destruction of traditional metaphysics", and thus Derrida's aims also, in fact, were to carefully read texts of various thinkers and thereby to reveal their limits. This course examines and discusses about these Derrida's works called "deconstruction" in order to aim to improve the students' ability to read and understand.
5. 学習の到達目標：1. 20 世紀のフランス思想の展開とその背景について論述できる。
2. デリダの思想ならびにデリダが読解する各思想の枠組みと限界について知ることができる。
3. 脱構築というテキストの読解方法について理解でき、自分なりの読み方を習得できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purposes of this course are
 1. to help students discuss the French thought in the 20th century and its historical backgrounds
 2. to help students explain Derrida's thought and the structure and limit of the ideas of various philosophers whose texts Derrida reads
 3. to help students understand the reading way called "deconstruction" and establish their own way to read a text.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 20 世紀フランス思想の概観
 3. レヴィナス読解 (1)：フッサールと他者
 4. レヴィナス読解 (2)：ハイデガーと他者
 5. レヴィナス読解 (3)：ヘーゲルと他者
 6. ルソー読解：エクリチュールと代補
 7. フーコー読解：コギトと狂気
 8. フッサール読解：「生き生きとした現在」と差延
 9. ハイデガー読解：時間と痕跡
 10. ヘーゲル読解 (1) 井戸とピラミッド
 11. ヘーゲル読解 (2) 主人と至高者
 12. ヘーゲル読解 (3) 家族と共同体のイロニー
 13. ヘーゲル読解 (4) 「神の死」と存在神論
 14. ヘーゲル読解 (5) 埋葬 (喪の仕事) とアンティゴネ
 15. 演習：『カフカ論——「掟の門前」をめぐって』を読む
8. 成績評価方法：学期末のレポート (70%)、授業への積極度 (30%) から総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：教科書は使用しない。資料を配布し、参考書は授業内でそのつど指示する。
No textbooks will be used. References are handed out at every class.
10. 授業時間外学習：配布されるプリントにより授業内容を復習し、理解できていない点があれば質問を用意し、次回授業時に質問すること。
Students are required to review each class using handouts. If there remain any parts they cannot understand, they should ask questions in the next class.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
オフィスアワーは授業後とする。E-mail への連絡も受け付ける。教員の連絡先は授業中に伝える。
Office hours are after the class. Students can make contact with the lecturer via e-mail, too. The contact information for the lecturer will be given in class.

科目名：哲学特論Ⅲ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM14210 科目ナンバリング：LIH-PHI603J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：哲学特論Ⅲ】

1. 授業題目：カントの観念論論駁とその諸文脈

2. Course Title (授業題目)：Kant's Refutation of Idealism and its Contexts

3. 授業の目的と概要： カントの『純粋理性批判』(第2版 1787年)における「観念論論駁」について講義する。観念論論駁の論証テキストを焦点ないし切り口にして、その哲学的背景と発展史、自己意識論や時間論となどの関連する諸テーマ、同時代の受容と批判、現代哲学における再検討など、その諸文脈に広げて考察する。

デカルトのコギトとイデアの哲学は「観念論」へと帰着して、近世哲学の宿痾となり、前批判期のカントもこれに取り組んだ。『純粋理性批判』の第四誤謬推理は、「デカルト的な観念論」を斥けて、新たな超越論的観念論を樹立する試みであった。これに対して、カントの立論をバークリーの観念論に擬える書評が出て、カントの激昂を招き、『プロレゴメナ』での駁論に繋がる。さらに『純粋理性批判』第二版は「観念論論駁」を加えて、観念論に正面から対決する陣容を拡充する。この観念論論駁は、超越論的感性論や第三誤謬推理などにおける自己意識と時間をめぐる批判的な考察を、論証として集約してみせたものである。また第二版には、自己触発論をはじめ、観念論論駁の脇を固める議論が追加されている。ところが、その観念論論駁の論証も満足のゆくものではなく、その後もカントは最晩年にいたるまで遺稿や『オープス・ポストゥムム』において、観念論論駁のより説得的な定式を模索した。老カントの執拗な努力は、ヤコービ、エーバーハルト、ラインホルト、シュルツェといった同時代の哲学者たちによる超越論的観念論の批判に応えようするものであった。現代哲学においてもカントの観念論論駁は、たとえば超越論的論証の代表例として注目を集めており、新たな解釈の可能性が模索されている。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will examine Kant's "Refutation of Idealism" in its various contexts.

5. 学習の到達目標：カントの観念論論駁の論証と諸文脈を把握する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To grasp the argument and contexts of Kant's Refutation of Idealism.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 1 観念論という問題
 - 2～3 近世哲学と前批判期のカントにおける観念論の問題
 - 4～5 『純粋理性批判』第1版(1781)の「第四誤謬推理」
 - 6～7 ゲッティンゲン書評と『プロレゴメナ』(1783)
 - 8～9 第2版(1787)の「観念論論駁」
 - 10 超越論的感性論第7節における時間と自我
 - 11 第三誤謬推理の人格同一性論
 - 12 外的感官と自己触発——第二版の追加
 - 13 形而上学遺稿と『オープス・ポストゥムム』における観念論論駁
 - 14 同時代の受容と批判における超越論的観念論
 - 15 現代哲学におけるカント
- (実際の授業では内容を絞って講義する。)

8. 成績評価方法：

数回のコメントと期末レポートによる

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書等は授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：指示した参考文献を読むこと

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学特論Ⅳ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：中畑 正志

コード：LM98832 科目ナンバリング：LIH-PHI604J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：哲学特論Ⅲ】

1. 授業題目：新アリストテレス主義、そしてその先へ—形而上学的諸概念の再構成
2. Course Title (授業題目)：Neo-Aristotelianism and beyond
3. 授業の目的と概要：アリストテレスの「形而上学」という知の構想、およびそれを構成する諸概念（たとえばウーシア（実体？）、デュナミス（可能態？）、エネルゲイア（現実態？））などは、近代の厳しい批判ののち、現代の形而上学においては再び注目を浴び、ネオアリストテリアンと呼ばれる人びとによって再生されている。この授業では、そうした諸概念がアリストテレスにおいてはどのような意味であったのかをあらためて確認したのち、現代形而上学における様相的諸概念（potentiality, disposition, power, essence）との関係、さらに他の知との関係を再考し、それが世界と生を考えるうえでどのような思考の方向性を示すのかを考える。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Aristotle's conception of the science of 'metaphysics', together with its constitutive notions such as OUSIA, DYNAMIS, and ENERGEIA (How translate these terms?) was criticized severely in the modern period but has attracted the attention of so-called Neo-Aristotelians who have revived his conception. In this course, we shall begin by reviewing what those notions meant to Aristotle. Then we shall discuss first their relationships to modal concepts in contemporary metaphysics (e.g. potentiality, disposition, power, and essence) and the relationship between metaphysics and other sciences. We shall conclude by considering the potentiality of metaphysics for our reflection on the world and life.
5. 学習の到達目標：形而上学という知とその基礎概念の原型と歴史、そしてその現在を再検討することを通じて、歴史的視点と理論的視点から、哲学の基本問題を平明に考える力を養う。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：We aim to develop the capacity of thinking about philosophical matters plainly and from both historical and theoretical viewpoints. We aim to do so through examining the origin, the history, and the present of the science of metaphysics as well as of its basic concepts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
基本的に以下のプランに従って講義を進める。ただし講義の進行や聴講者の理解などに対応して順序や同一テーマの回数を変えることがある。
第1回 案内 アリストテレスにとっての「形而上学」
第2回 「形而上学」という知の歴史と現在
第3回 ウーシアの基本的意味（「実体」か？）
第4回 「形而上学」におけるウーシア概念
第5回 ウーシア概念の受容と変容、そして現在
第6回 デュナミスとエネルゲイア/エンテレケイア(1) 解釈の歴史
第7回 デュナミスとエネルゲイア/エンテレケイア(2) 「形而上学」⑥ 卷
第8回 デュナミスとエネルゲイア/エンテレケイア(3) 「可能態」と「現実態」か？
第9回 形相とエネルゲイア/エンテレケイア、素材とデュナミス
第10回 行為、活動、運動
第11回 神は何をおこない、何をしないのか
第12回 現代形而上学における分析(1) 新アリストテレス主義
第13回 現代形而上学における分析(2) アリストテレス的思考の可能性
第14回 第15回 まとめと展望
8. 成績評価方法：
授業期間中の1回のリアクションペーパーと授業後のレポート
9. 教科書および参考書：
各時間に適宜資料を配付する。
10. 授業時間外学習：各時間の前に適宜資料を読む。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：生命環境倫理学特論 I / Bio-Environmental Ethics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM12307 科目ナンバリング：LIH-PHI605J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：哲学特論 I】

1. 授業題目：生命環境倫理の諸問題

2. Course Title (授業題目) : Issues in Bio- and Environmental Ethics

3. 授業の目的と概要：医療をはじめとする科学技術と人間の関わりをどう捉えるかは今日ますます重要な問いとなっている。この授業では応用倫理学の基本的な概念と原理を学ぶとともに、生命環境倫理学の主要問題を紹介する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : How to understand the relationship between science, technology including medicine and human beings has become an increasingly important issue today. This course deals with the basic concepts and principles of applied ethics. It also explains some important issues of bio- and environmental ethics.

5. 学習の到達目標：応用倫理学の基本的な事項を理解し、生命環境倫理学の個別の問題に対して自分なりに考えることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標) : After taking this course, participants will be able to :

- Explain the essential concepts of applied ethics
- Discuss the individual problems of bio- and environmental ethics.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

規範倫理学の基礎とともに、生命環境倫理学におけるその具体的あり方、現在の諸問題について順次検討する。基本的に講義とディスカッションで構成するが、必要に応じてビデオの使用、論文紹介を行う。

- 1, はじめに：生命環境倫理学への招待
- 2, 功利主義
- 3, 義務論
- 4, 徳倫理学
- 5, 正義論(1)
- 6, 正義論(2)
- 7, 生殖医療
- 8, 終末期医療
- 9, 感染症の倫理
- 10, 再生医療
- 11, 世代間倫理
- 12, 環境正義
- 13, リスクと予防原則
- 14, 生命環境倫理学の展開
- 15, まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 80% (授業中に実施する小レポートを含む) 授業への参加 20%

9. 教科書および参考書：

参考書：赤林 朗他編『入門・医療倫理』I～III、勁草書房。吉永明弘、寺本剛 編『環境倫理学』昭和堂

10. 授業時間外学習：上記テキストをもとに基本事項を解説するので必ず振りかえって見ていただきたい。生命倫理学や環境倫理学の文献はたくさんあるので、進んで取り組んで欲しい。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：哲学総合演習Ⅰ／Seminar in PhilosophyⅠ

曜日・講時：前期 月曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：直江清隆、荻原理、原塑、城戸淳

コード：LM11503 科目ナンバリング：LIH-PHI606J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：哲学研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：哲学研究の作法と技法 1

2. Course Title (授業題目)：Philosophy(Advanced Seminar)Ⅰ

3. 授業の目的と概要：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。

また、特定質問者の役割を果たすことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。

哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to express and deepen their philosophical thoughts through presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to structure philosophical discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは qgg476o です。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. オリエンテーション
2. 報告と討論 (1)
3. 報告と討論 (2)
4. 報告と討論 (3)
5. 報告と討論 (4)
6. 報告と討論 (5)
7. 報告と討論 (6)
8. 報告と討論 (7)
9. 報告と討論 (8)
10. 報告と討論 (9)
11. 報告と討論 (10)
12. 報告と討論 (11)
13. 報告と討論 (12)
14. 報告と討論 (13)
15. 報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

発表内容 35%

討論へ参加 30%

討論の内容 35%

9. 教科書および参考書：

特に指定しない。

10. 授業時間外学習：報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学総合演習Ⅱ／ Seminar in PhilosophyⅡ

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：直江清隆、荻原理、原塑、城戸淳

コード：LM21504 科目ナンバリング：LIH-PHI607J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：哲学研究の作法と技法 2

2. Course Title (授業題目)：Philosophy(Advanced Seminar)Ⅱ

3. 授業の目的と概要：授業の実施形態：オンライン

口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。

また、特定質問者の役割を果たすことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。

哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to express and deepen their philosophical thoughts through presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to structure philosophical discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション

2. 報告と討論（1）

3. 報告と討論（2）

4. 報告と討論（3）

5. 報告と討論（4）

6. 報告と討論（5）

7. 報告と討論（6）

8. 報告と討論（7）

9. 報告と討論（8）

10. 報告と討論（9）

11. 報告と討論（10）

12. 報告と討論（11）

13. 報告と討論（12）

14. 報告と討論（13）

15. 報告と討論（14）

8. 成績評価方法：

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

発表内容 35%

討論へ参加 30%

討論の内容 35%

9. 教科書および参考書：

特に指定しない。

10. 授業時間外学習：報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：哲学研究演習 I / Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM24211 科目ナンバリング：LIH-PHI608J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：哲学研究演習 I】

1. 授業題目：ニーチェ『善悪の彼岸』を読む
 2. Course Title (授業題目)：Nietzsche's Beyond Good and Evil
 3. 授業の目的と概要： ニーチェのアフォリズム形式の散文を読み解くことは、じつはそれほど易しくない。とりわけ、円熟期の最高の完成度をみせる『善悪の彼岸』(1886 年)は、豊かな詩想をたたえつつ、硬質な文体と堅牢な論理によって書かれており、なかなか手強い。内容的にも、この書は旧来の形而上学や畜群道徳の批判をふまえて、傍題にいう「未来の哲学の序曲」を語るものであり、おそるべき密度と速度で展開してゆく。
この演習では、邦訳(木場深定訳)をもとに『善悪の彼岸』を読みすすめる。指定された断章について担当者が要約と解釈を報告したのち、討議によって理解を深めるものとする。
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Reading Nietzsche's Beyond Good and Evil
 5. 学習の到達目標：ニーチェの哲学的テキストを読む体力と技法を身につける。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students should be able to read Nietzsche's philosophical texts.
 7. 授業の内容・方法と進捗予定：
 1. 導入 『善悪の彼岸』を読む
 - 2-3. 第 1 章 哲学者たちの先入見について
 - 4-5. 第 2 章 自由な精神
 - 6-7. 第 3 章 宗教的なもの
 - 8-9. 第 5 章 道徳の自然誌のために
 - 10-11. 第 6 章 われら学者たち
 12. 第 7 章 われわれの徳
 13. 第 8 章 民族と祖国
 - 14-15. 第 9 章 高貴とは何か
 8. 成績評価方法：
報告、討議、期末レポート。
 9. 教科書および参考書：
教科書 ニーチェ『善悪の彼岸』木場深定訳、岩波文庫、改版 2010 年(初版 1970 年)。
(改版のほうの冊子本を購入のうえ臨むこと。)
- 参考書 Friedrich Nietzsche, *Jenseits von Gut und Böse / Zur Genealogie der Moral*, Sämtliche Werke, Kritische Studienausgabe, Bd. 5, hrsg. G. Colli; M. Montinari, dtv / de Gruyter, 1996.
ニーチェ『善悪の彼岸』中山元訳、光文社古典新訳文庫、2009 年。
(その他の研究書・コメンタリー等は授業中に紹介します。)
10. 授業時間外学習：テキストを反芻して読むこと。
 11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
 12. その他：なし

科目名：哲学研究演習Ⅱ／ Philosophy(Advanced Seminar)II

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：森 一郎

コード：LM12407 科目ナンバリング：LIH-PHI609J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：政治哲学演習——アレントの視点から
2. Course Title (授業題目)：Some Exercises in Political Philosophy from Hannah Arendt's Viewpoint
3. 授業の目的と概要：現代世界の危機に直面しているわれわれは、この状況から出発して、いかにして原理的に思考できるだろうか。この授業では、革命とテロリズム、物語ること、生命テクノロジーといったトピックを選んで、議論を深めていく。その際、ハンナ・アレントの政治哲学的思考に手がかりを求める。

* グーグルクラスルームのクラスコードは次の通り。
哲学思想演習（学部）：zofvhtz
哲学研究演習Ⅱ（大学院）：7hj qw3x

* 全員が教室に集まって対面授業を行ないたいが、それが難しい場合、
グーグルミートでリアルタイムオンライン授業を行なう。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this lecture we discuss how to think the crises of the modern world philosophically, according to the direction of Hannah Arendt's political thought. Our main topics: Revolution and Terrorism, Narrative as Salvation, Biotechnology and Generation, and Natality as the Condition of Action.

*Google Classroom Classcodes are following.
Western Philosophical Thought (Seminar)：zofvhtz
Philosophy (Advanced Seminar) II: 7hj qw3x

*I would like to see all the class members at the real classroom (face to face),
but, if impossible, we use Google Meet (real-time online).
5. 学習の到達目標：1. じっくりものを考えるということの重要性を理解する。
2. 「物たちのもとで、人びととともに、この世界に存在している」という当たり前の事実が、そのまま哲学的、倫理的な問題現象を形づくることを理解する。
3. 哲学の歴史に学ぶことの重要性を理解する。
4. 今日的問題を根本的に掘り下げることの重要性を理解する。
5. 人類の将来に思いを馳せ、世界への愛をはぐくむ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To learn the significance of thinking radically.
2. To understand the philosophical problematics of the fact that we are in the world.
3. To learn the significance of the history of philosophy.
4. To understand the significance of fundamental reflexions on today's human condition.
5. To take care of mankind's future and to learn the love of the world.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
第1回：ガイダンス
第2回：革命精神とその影——テロリズムの系譜学（その1）
第3回：革命精神とその影——テロリズムの系譜学（その2）
第4回：革命精神とその影——テロリズムの系譜学（その3）
第5回：革命精神とその影——テロリズムの系譜学（その4）
第6回：革命精神とその影——テロリズムの系譜学（その5）
第7回：革命精神とその影——テロリズムの系譜学（その6）
第8回：ミルトンと救いの可能性
第9回：出生の危険について——デモクリトスとクローンの問題（その1）
第10回：出生の危険について——デモクリトスとクローンの問題（その2）
第11回：出生の危険について——デモクリトスとクローンの問題（その3）
第12回：出生の危険について——デモクリトスとクローンの問題（その4）
第13回：始まりの経験——出生性と「第二の誕生」
第14回：誕生、行為、創設
第15回：まとめ
8. 成績評価方法：
平常点（出席・質疑応答への参加等）50%、学期末レポート50%で、総合的に評価する。
9. 教科書および参考書：

教科書はとくに定めず、授業用に用意したプリントを配布（配信）し、それに沿って議論する。

参考書：

- ・ハンナ・アーレント『活動的生』みすず書房、2015年
- ・ハンナ・アーレント『人間の条件』ちくま学芸文庫、1994年
- ・ハンナ・アーレント『革命について』ちくま学芸文庫、1995年
- ・森一郎『死と誕生 ハイデガー・丸鬼周造・アーレント』東京大学出版会、2008年
- ・森一郎『死を超えるもの 3・11以後の哲学の可能性』東京大学出版会、2013年
- ・森一郎『世代問題の再燃 ハイデガー、アーレントとともに哲学する』明石書店、2017年
- ・森一郎『現代の危機と哲学』放送大学教育振興会、2018年
- ・森一郎『ボリスへの愛 アーレントと政治哲学の可能性』風行社、2020年

10. 授業時間外学習：配布プリント、参考書、関連文献を熟読すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

使用言語：日本語/Language: Japanese

科目名：哲学研究演習Ⅲ／ Philosophy(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 5講時

Semester：1学期 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM15503 科目ナンバリング：LIH-PHI630J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：エンハンスメントの哲学
2. Course Title (授業題目)：Philosophy of enhancement
3. 授業の目的と概要：エンハンスメントは、身体能力や認知能力を薬理的・工学的技術により強めることであり、この是非に対して哲学者の間でも大きな論争が存在する。この演習では、エンハンスメントの反対論者として代表格であるマイケル・サンデルの見解を確認し、それを批判的に検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This exercise reviews and critically examines the views of Michael Sandel, a leading opponent of enhancement.
5. 学習の到達目標：1. エンハンスメントの哲学的・倫理学的問題を理解する。
2. 哲学的テキストを批判的に読解し、その内容を理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To understand the philosophical and ethical issues of enhancement.
2. To be able to read philosophical texts critically and understand their contents.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目はオンライン、同期型授業として実施する。
最初、エンハンスメントについて解説した後（1回～3回授業）、Michael J. Sandel の The Case against Perfection をよみ（4回～8回授業）、後半で、Michael Hauskeller の "Human Enhancement and the Giftedness of Life" を読む（9回～15回授業）。
8. 成績評価方法：
課題（60%）、レポート（40%）
9. 教科書および参考書：
Michael J. Sandel, 2007. The Case against Perfection: Ethics in the Age of Genetic Engineering. Harvard University Press.
マイケル・J・サンデル『完全な人間を目指さなくてもよい理由—遺伝子操作とエンハンスメントの倫理』（林・伊吹訳）、ナカニシヤ出版、2010年
Michael Hauskeller, 2011. "Human Enhancement and the Giftedness of Life," Philosophical Papers, Vol. 40, No. 1: 55-79
10. 授業時間外学習：書籍と論文を読み、関連事項を調べ、文章にまとめておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：哲学研究演習Ⅳ／ Philosophy(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM25503 科目ナンバリング：LIH-PHI631J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：当事者研究の哲学
2. Course Title (授業題目)：Philosophy of tojisha-kenkyu
3. 授業の目的と概要：当事者研究は、困りごとの当事者が自分自身がかかえる問題を、他の人々と一緒に議論しながら、言語化することで、その問題の本性を探究し、対処方法を編み出す、当事者主導型の研究手法である。この研究活動を検討し、その哲学的意義を明らかにする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Tojisha-kenkyu is a citizen driven research method in which a party in trouble explores the true nature of the problem and develops ways to deal with it by verbalizing the problem while discussing it with other people. This research activity will be examined and its philosophical significance will be clarified.
5. 学習の到達目標：1. 当事者研究の哲学的・倫理学的問題を理解する。
2. テキストを批判的に読解し、その内容を理解できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To understand the philosophical and ethical issues of Tojisha-kenkyu.
2. To be able to read texts critically and understand their contents.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目は、基本的に、オンライン、同期型授業として実施する。
最初、当事者研究について解説した後（1回～3回授業）、石原孝二編著『当事者研究の研究』から、いくつかの論考をよみ（4回～8回授業）、学期の後半で、熊谷晋一郎『当事者研究：等身大の〈わたし〉の発見と回復』を読む（9回～15回授業）。
8. 成績評価方法：
課題（60%）、レポート（40%）
9. 教科書および参考書：
石原孝二編著『当事者研究の研究』医学書院、2013年
熊谷晋一郎『当事者研究：等身大の〈わたし〉の発見と回復』岩波書店、2020年
10. 授業時間外学習：書籍と論文を読み、関連事項を調べ、文章にまとめておくこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：古代中世哲学研究演習 I / Ancient and Medieval Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LM11307 科目ナンバリング：LIH-PHI610J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：古代中世哲学研究演習 I】

1. 授業題目：プラトン『ソフィステス』を読む (1)

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Plato's SOPHIST, 1

3. 授業の目的と概要：プラトン『ソフィステス』の 231c9 から、原語（古代ギリシャ語）で丹念に読み進める。（前年度、同対話篇の冒頭から 222d まで読んだ。途中を飛ばして重要な箇所に入ろうというもの。）

あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳す（わからなかった点はいくらかでも質問してくれて結構）。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論する。翻訳・注釈も参照する。二次文献も適宜参照する。ただし授業の進め方は、参加者と相談のうえ変更するかもしれない。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：We shall read Plato's SOPHIST from 231c9 on.

First, the previously appointed attendant will translate a certain passage into Japanese and raise questions of any kind. Then all of us will discuss to get clear about the grammar and the philosophical content. We shall consult translations and commentaries and occasionally discuss secondary literature.

5. 学習の到達目標：今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所ですべての問題になっている事柄について論じることができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：To become able to explain the philosophical points in the passage that we shall have read. To become able to explain the details of the text of the passage.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【重要】この科目の資料や連絡は Classroom に掲載します。この科目のクラスコードは です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

『ソフィステス』篇の本年度読む箇所「エレアからの客人」は、(知識をもっているように見える) ソフィステスを、(像) (エイドーロン) を作る者と規定し、(像制作術) を (似像制作術) (幻像制作術) とに「分割」し、ソフィステスの術はどちらなのか、迷う。しかしそもそも (現われ) の存立を言い立てるには、パルメニデスに反して “(有らぬもの) が有る” と言わなければならないことが指摘され、(有らぬもの) についても、また (有るもの) についても、難問が提起される。ハイデガー『存在と時間』の冒頭に引用されている、「存在をめぐる大地族との戦い」についての章句は、(有るもの) について難問を指摘するこの箇所に含まれている。

初回はイントロ。

最初はゆっくり (1 回に 7 行ほどからスタート)、だんだんとペースを上げていき、最後は 1 回に OCT の 1 ページ半くらい進めるようにしたい (各回にどこまでと指定や予想をすることはできない。)

8. 成績評価方法：

担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外の、授業中のパフォーマンス：20%

9. 教科書および参考書：

テキスト・注釈はプリントを配布する。それ以外の文献については授業中、随時紹介する。

10. 授業時間外学習：次回に読む箇所の予習

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

古代ギリシャ語の初等文法を習得していることが参加の条件。ただし、覚え残しが多々あってもよい。

科目名：古代中世哲学研究演習Ⅱ／ Ancient and Medieval Philosophy(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：荻原 理

コード：LM21305 科目ナンバリング：LIH-PHI611J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：古代中世哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：プラトン『ソフィステス』を読む(2)

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Plato's SOPHIST, 2

3. 授業の目的と概要：前期に引き続き、プラトン『ソフィステス』を原語(古代ギリシャ語)で丹念に読み進める。

あらかじめ決めておいた担当者が担当箇所を日本語に訳す(わからなかった点はいくらでも質問してくれて結構)。教員も含め、皆で、文法事項や内容について議論する。翻訳・注釈も参照する。二次文献も適宜参照する。ただし授業の進め方は、参加者と相談のうえ変更するかもしれない。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Following the previous semester, we shall continue to read Plato's SOPHIST.

First, the previously appointed attendant will translate a certain passage into Japanese and raise questions of any kind. Then all of us will discuss to get clear about the grammar and the philosophical content. We shall consult translations and commentaries and occasionally discuss secondary literature.

5. 学習の到達目標：今学期読んだ箇所について、文法的に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の内容について、明確に説明できるようになる。

今学期読んだ箇所の問題になっている事柄について論じることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To become able to explain the philosophical points in the passage that we shall have read. To become able to explain the details of the text of the passage.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

【重要】この科目の資料や連絡はClassroomに掲載します。この科目のクラスコードは です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

『ソフィステス』篇の本年度読む箇所で「エレアからの客人」は、(知識をもっているように見える)ソフィステスを、(像(エイドーロン)を作る者と規定し、(像制作術)を(似像制作術)(幻像制作術)とに「分割」し、ソフィステスの術はどちらなのか、迷う。しかしそもそも(現われ)の存立を言い立てるには、パルメニデスに反して“〈有らぬもの〉が有る”と言わなければならないことが指摘され、〈有らぬもの〉についても、また〈有るもの〉についても、難問が提起される。ハイデガー『存在と時間』の冒頭に引用されている、「存在をめぐる大地族との戦い」についての章句は、〈有るもの〉について難問を指摘するこの箇所に含まれている。

初回はイントロ。

最初はゆっくり(1回に7行ほどからスタート)、だんだんとペースを上げていき、最後は1回にOCTの1ページ半くらい進めるようにしたい(各回にどこまでと指定や予想をすることはできない。)

8. 成績評価方法：

担当時のパフォーマンス：80% 担当時以外の、授業中のパフォーマンス：20%

9. 教科書および参考書：

テキスト・注釈はプリントを提供する。それ以外の文献については授業中、随時紹介する。

10. 授業時間外学習：次回に読む箇所の予習

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

古代ギリシャ語の初等文法を習得していることが参加の条件。ただし、覚え残しが多々あってもよい。

科目名：近代哲学研究演習 I / Modern Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM13507 科目ナンバリング：LIH-PHI612J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：近現代哲学研究演習 I】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究
2. Course Title (授業題目)：Kant's Critique of Pure Reason
3. 授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』(1781/87 年)をドイツ語原文で読む。今年度は前期は緒論(第二版)(Einleitung)から読みはじめ、後期には感性論(Aesthetik)に進む予定である。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に応じてもらう。また、進行に応じて、関連するコメンタリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：A close reading and analysis of Kant's Critique of Pure Reason.
5. 学習の到達目標：哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the abilities to read and analyse philosophical texts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 導入——『純粋理性批判』入門、演習の進め方
 2. 緒論(第2版) I 純粋認識と経験的認識との区別について
 - 3-4. II 我々はある種のアприオリな認識を有しており、それは普通の知性にさえ決して欠けていない
 - 5-6. III 哲学は、あらゆるアприオリな認識の可能性、原理、範囲を規定する学問を必要とする
 - 7-8. IV 分析的判断と総合的判断との区別について
 - 9-10. V 理性のすべての理論的学問には、アприオリな総合的判断が原理として含まれる
 - 11-12. VI 純粋理性の一般的課題
 - 13-15. VII 純粋理性批判という名をもつ特殊な学問の理念と区分
8. 成績評価方法：

訳読、報告、討議による。
9. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998 (ISBN: 3787313192) .

(他の箇所参照のために原典の冊子は必須です。できれば上記の新哲学文庫版を購入・持参してください。)
10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。
 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 2. その他：なし
ドイツ語の初等文法を履修済みであること(正しい発音に留意すること)。ただし1ヶ月のドイツ語の自習で、演習に臨んでもよい。

科目名：近代哲学研究演習Ⅱ／ Modern Philosophy (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 5 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM23507 科目ナンバリング：LIH-PHI613J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：近現代哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究
2. Course Title (授業題目)：Kant's Critique of Pure Reason
3. 授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』(1781/87 年)をドイツ語原文で読む。今年度は前期は緒論(第二版)(Einleitung)から読みはじめ、後期には感性論(Aesthetik)に進む予定である。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に応じてもらう。また、進行に応じて、関連するコメントリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：A close reading and analysis of Kant's Critique of Pure Reason.
5. 学習の到達目標：哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop the abilities to read and analyse philosophical texts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 後期への導入
 - 2-3. 超越論的原理論 第1部 超越論的感性論 §1
 - 4-6. 第一節 空間について §2 この概念の形而上学的究明
 7. §3 空間概念の超越論的究明
 - 8.-9. これらの概念からの結論
 10. 第二節 時間について §4 時間概念の形而上学的究明
 11. §5 時間概念の超越論的究明
 - 12-13. §6 これらの概念からの結論
 - 14-15. §7 解明
8. 成績評価方法：

訳読、報告、討議による。
9. 教科書および参考書：

Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.
(他の箇所参照のために原典の冊子は必須です。できれば上記の新哲学文庫版を購入・持参してください。)
10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：現代哲学研究演習 I / Contemporary Philosophy(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM12505 科目ナンバリング：LIH-PHI614J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：近現代哲学研究演習 III】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目) : Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサールの「志向的体験とその《内容》」(『論理学研究』第五研究)を読み、現象学の基本概念を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The aim of this course is to read Husserl's "On Intentional Experiences and their 'Contents' ("Logical Investigations" Investigation V) and help students to acquire an understanding of the fundamental principles of phenomenology.

5. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における志向性の役割について論じることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標) : After taking this course, participants will be able to :

- Explain the essential concepts of phenomenology

- Discuss the role of intentionality in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

現象学の基本的な概念に志向性がある。「意識とは何かについての意識である」とのちに定式化されるこの概念は、対象を認識する認識体験のあり方や対象の与えられ方を理解する上でのキーとなっており、現代哲学、思想、科学に大きな影響を及ぼしている。

この授業では現象学について紹介をしたのち、現象学の出発点に位置する『論理学研究』の該当箇所を原文でていねい読むことにする。ドイツ語のほかにもすぐれた英訳もある。また、訳註と解説がついた日本語訳も出ている。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めるが、同時にこの概念の問題性について議論する。

1、イントロダクション 現象学とは

2、『論理学研究』と『イデー』における志向性の問題概観

3、「志向的体験とその《内容》」読解 (1)

4、「志向的体験とその《内容》」読解 (2)

5、「志向的体験とその《内容》」読解 (3)

6、「志向的体験とその《内容》」読解 (4)

7、「志向的体験とその《内容》」読解 (5)

8、中間まとめ スコラ的な志向性概念と現象学

9、「志向的体験とその《内容》」読解 (6)

10、「志向的体験とその《内容》」読解 (7)

11、「志向的体験とその《内容》」読解 (8)

12、「志向的体験とその《内容》」読解 (9)

13、「志向的体験とその《内容》」読解 (10)

14、『論理学研究』から『イデー』へ

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Logische Untersuchungen", Zweiter Band(Husserliana XIX), ("Logical Investigations", volume II)(『論理学研究 3』立松弘孝訳、みすず書房) 欧文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：現代哲学研究演習Ⅱ／ Contemporary Philosophy(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM22508 科目ナンバリング：LIH-PHI615J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：近現代哲学研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサールの「志向的体験とその《内容》」(『論理学研究』第五研究)を読み、現象学の基本概念を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read Husserl's "On Intentional Experiences and their 'Contents' ("Logical Investigations" Investigation V) and help students to acquire an understanding of the fundamental principles of phenomenology.

5. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における志向性の役割について論じることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After taking this course, participants will be able to：

- Explain the essential concepts of phenomenology

- Discuss the role of intentionality in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に続き、フッサールの「志向的体験とその《内容》」(『論理学研究』第五研究)を読んで議論する。

この授業では現象学について紹介をしたのち、本書を原文で読むことにする。ドイツ語のほかにすぐれた英訳もある。また、訳註と解説がついた日本語訳も出ている。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めます。

1、前期の授業の復習：『内的時間意識』における時間の問題構成

2、「志向的体験とその《内容》」読解(1)

3、「志向的体験とその《内容》」読解(2)

4、「志向的体験とその《内容》」読解(3)

5、「志向的体験とその《内容》」読解(4)

6、「志向的体験とその《内容》」読解(5)

7、「志向的体験とその《内容》」読解(6)

8、「志向的体験とその《内容》」読解(7)

9、「志向的体験とその《内容》」読解(8)

10、「志向的体験とその《内容》」読解(9)

11、「志向的体験とその《内容》」読解(10)

12、「志向的体験とその《内容》」読解(9)

13、「志向的体験とその《内容》」読解(10)

14、現象学における意識概念

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Logische Untersuchungen", Zweiter Band(Husserliana XIX), ("Logical Investigations", volume II)(『論理学研究』)

3』立松弘孝訳、みすず書房) 欧文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、現象学について自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：科学哲学研究演習 I / Philosophy of Science(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM15406 科目ナンバリング：LIH-PHI616J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：科学哲学研究演習 I】

1. 授業題目：哲学のメソッド

2. Course Title (授業題目)：How to Write a Philosophy Paper

3. 授業の目的と概要：哲学で論文を執筆するのは難しい。論文を執筆するためには、テーマを決め、そのテーマに関連する文献を集め、それらを読解し、議論状況を確認した後で、いままでの議論には見られない著者独自の視点をもつ議論を組み立てなければならない。だが、特にどのようなテーマで、またどのような仕方でも議論を組み立てれば、著者独自で、〈哲学〉らしい研究になるのだろうか。

この授業では、哲学研究の方法、特に文献の読解・解釈の方法を演習を通じて学ぶ。また、同時並行して、受講者各人に、卒論・修論を執筆するとして、どのようなテーマについて、どのように論じたいかを考えてもらい、その内容を学期の後半の授業中、発表してもらい、受講者全員で討論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, you will learn how to write a philosophical paper through exercises.

5. 学習の到達目標：1. 哲学論文の分析方法に習熟する。

2. 研究テーマを見つけ、テーマに関連する文献を調査し、著者独自の議論を組み立てることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. You will be familiar with philosophical methods

2. You will be able to find research themes, examine the literature related to the themes, and make up your own discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、オンライン、同期・非同期併用授業として実施する。

学期全体の授業構成は以下を予定している。

1. イントロダクション

2～6. 哲学研究方法論演習

7～9. 文献のまとめ方演習

10～15. 卒論・修論構想発表

8. 成績評価方法：

授業中の課題に取り組む (60%)、研究発表 (40%)

9. 教科書および参考書：

佐々木健一『論文ゼミナール』2014 年、東京大学出版会

戸田山和久『新版 論文教室—レポートから卒論まで』2012 年、NHK 出版会

10. 授業時間外学習：論文執筆を目的として授業時に課される課題と取り組む。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業の具体的な進め方については初回授業時に説明する。

この授業は基本的には哲学専修・倫理学専修 3 年次の学生向けであるが、哲学・倫理学を専門とする博士前期課程大学院生も出席してもよい。ただ、この授業を受講することで、毎週月曜 5 限に実施している演習を代替することはできない。また、他の分野を専門とする大学院生で、この授業を受講することを希望する者は授業担当教員に相談すること。

科目名：科学哲学研究演習Ⅱ／Philosophy of Science(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：原 壱

コード：LM25406 科目ナンバリング：LIH-PHI617J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：科学哲学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：記号論理学

2. Course Title (授業題目) : Formal Logic

3. 授業の目的と概要：一階述語論理の言語に習熟するとともに、タブローによる妥当性のチェック方法を学び、そのスキルを使用して日本語による推論の妥当性を検討できるようにすることがこの授業の目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The purpose of this course is to learn the language of first-order logic, learn how to check the validity of a tableau, and use that skill to examine the validity of inference in Japanese.

5. 学習の到達目標：1. 記号論理学の背景にある基本的な考え方、概念を理解する。

2. 記号の操作法を身につける。

3. 日本語の推論の妥当性を検討する能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : 1. Understand the basic concepts of formal logic.

2. Learn how to operate symbols.

3. To acquire the ability to examine the validity of inference in Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目はオンライン、同期授業として実施する。

学期を通じた授業の構成として以下を予定している。

1. イントロダクション
2. 記号について
3. 命題について
4. 命題の意味
5. 推論の妥当性
6. タブロー 1
7. タブロー 2
8. 多重量化
9. 自然言語から型式言語への翻訳
10. 数の数え方
11. 日本語による推論の妥当性 1
12. 日本語による推論の妥当性 2
13. 日本語による推論の妥当性 3
14. タブローの健全性と完全性
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席し、課題を提出する (60%)、テスト (40%)

9. 教科書および参考書：

加藤浩、土屋俊『記号論理学』放送大学教育振興会、2014 年

丹治信春『論理学入門』筑摩書房、2014 年

10. 授業時間外学習：自宅で、テキストを予習し、課題と取り組むこと

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：生命環境倫理学研究演習 I / BioEnvironmental Ethics(Advanced Seminar) I

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM22305 科目ナンバリング：LIH-PHI618J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：生命環境倫理学研究演習】

1. 授業題目：AI、ゲノムと人間（医療や食糧、気候変動など）
2. Course Title (授業題目)：Gemone and human being (Medicine, Food, Climate Change etc.)
3. 授業の目的と概要：AI やゲノム編集は人間や社会を大きく変えようとしている。医療や食糧、環境をめぐる問題も例外では無い。この授業ではこのような状況で考慮されるべき平等、権利、豊かさ、エンハンスメントなどについて考えていく。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：AI and Genome editing can radically change the human-world relations including medical and environmental ones. This course deals with ethical issues such as equality, rights, richness, enhancement, etc. that should be considered in the AI society.
5. 学習の到達目標：生命倫理学の基本的な事項と問題を理解し、批判的に検討できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：After taking this course, participants will be able to :
 - Explain the essential concepts of applied ethics
 - Discuss the individual problems of bio- and environmental ethics.
7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：オンライン

この授業では、参加者で分担を決め、論文紹介と討論をメインとする。テキストとしては、Human Genome Editing: Science, Ethics, and Governance, 2017:Scott, N. Dane, Food, Genetic Engineering and Philosophy of Technology: Magic Bullets, Technological Fixes and Responsibility to the Future, 2019 などから適宜選択のうえ、開講時に参加者に提示する。必要に応じて日本語文献も使用する。分量にこだわらず、じっくり討論することに力点を置く。

 - 1, ガイダンス(授業の進め方、予習上の注意、テキストの配布、要約担当の割り当て)
 - 2, 技術評価、技術哲学の現在とゲノム
 - 3, ゲノムと人間、社会 (1)
 - 4, ゲノムと人間、社会 (2)
 - 5, ゲノムと人間、社会 (3)
 - 6, ゲノムと人間、社会 (4)
 - 7, ゲノムと人間、社会 (5)
 - 8, ゲノムと人間、社会 (6)
 - 9, AI と人間 (医療や環境) (7)
 - 10, AI と人間 (医療や環境) (8)
 - 11, AI と人間 (医療や環境) (9)
 - 12, AI と人間 (医療や環境) (10)
 - 13, AI と人間 (医療や環境) (11)
 - 14, AI と人間 (医療や環境) (12)
 - 15, まとめ

(研究状況や参加者の関心に応じて扱うトピックスを若干変更することがある)
8. 成績評価方法：

レポート(訳読の担当などを含む)60% 授業全体への貢献度 40%
9. 教科書および参考書：

開講時に分担一覧を配布し、プリントはそのつど配布する。

そのほかの参考文献については適宜授業内に指示する。AI についてはクーケルバーク『AI の倫理学』が分かりやすい。
10. 授業時間外学習：担当の回でなくとも予習すること、討議をもとに再度自分で考え直すこと。生命倫理についての基本的な考え方が問われることも多いので、前期の授業で扱った基本書にも進んで取り組んで欲しい。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし